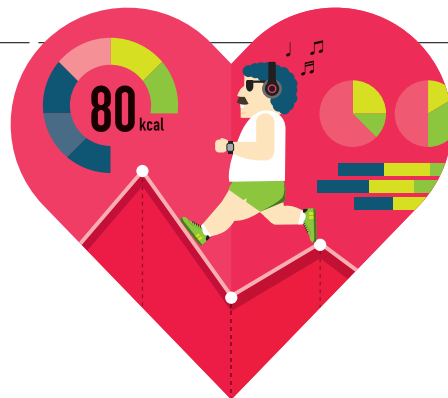


HEALTH TECH FROM ISRAEL

注目スタートアップのヘルスプロダクツ

心臓の切開なしで狭窄症を治す困難なカテーテル施術を可能にした医療器具、飲み込むだけで体内の様子がわかるカプセル型内視鏡……。医療の分野でもイスラエルは、イノベーションを生んでいる。また、昨年ジェネリック医薬品で有名なイスラエルのテバ製薬による日本の武田薬品との合弁会社を設立や、マイクロソフトがヘルスケアに特化したアクセラレータープログラムをこの地で開始したことも記憶に新しい。高度な医療保険制度が確立され、妊娠・出産の医療費が全額保険で賄われるこの国ではヘルスケアが身近にある。例えばスマートフォンを利用した健康管理システムがさまざまな分野で開発されたり、脳科学の研究成果がゲームを利用した治療に応用されたり。そんな分野を越えたコラボレーションをご紹介します。



1 ウェアラブルで、猫背だって治ります UPRIGHT

姿勢矯正専門のウェアラブル「UPRIGHT Posture Trainer」。背中に装着すると、デバイスが背骨の動きをモニタリングし、姿勢が悪くなったときに振動で知らせてくれる。運動するスマートフォン用アプリが設計してくれる自分専用のトレーニングプログラムに従って1日15分～1時間訓練すれば、意識せずともよい姿勢を保てるようになる。



2 検査は家で、医師の診断はインターネットで TytoCare

遠隔診療のためのデバイスとプラットフォーム「Tyto」。患者はデバイスを使って、心臓や肺、体温など7種類の検査を自分で行う。そのデータをインターネットを通じて医師に送ることにより、自宅にいながら診断を仰ぐことができるという仕組みだ。診断結果は、クラウドを通じてほかの医師とも共有することもできるので、セカンドオピニオンを得るのも簡単だ。



3 この小さなメガネが、あなたのガイドヘルパーになる OrCam

弱視者向けに開発されたメガネ型デバイス「OrCam MyEye」は、装着した人が指差した物や文字を認識し、それが何であるかを音声で教えてくれる。新聞や本、看板、商品パッケージなどの文字に加えて、信号の色や人の顔も識別できる。学習機能もついており、新しく会った人や見た物を覚えさせることもできるので、使うにつれて識別できるものが増えていく。



4 「もう一度歩きたい」を実現したサポートスーツ ReWalk Robotics

「ReWalk」は脊髄損傷などによって歩行困難となった人のための、外骨格タイプのサポートスーツだ。背中の部分に制御装置と電源が入っており、歩行者は杖でバランスをとりつつ、モーターによって両脚を動かし、歩行することができる。着脱や立ち座りの操作は、手首に装着した腕時計型の端末を使って行う。2015年の6月には、日本でも販売が開始された。



5 脳のリハビリをするなら、テレビゲームで Intendu

「Functional Brain Trainer」は、脳の認知能力を高めるためのゲーム・プラットフォームだ。脳卒中や外傷性脳損傷などによって脳に障害を負った人が、ゲームを通じて記憶力や忍耐力などの失われた能力の回復することをサポートする。プレイデータは記録され、進捗をどこからでも確認できる。自宅でも、リハビリを続けてもらうための工夫が他にも満載である。



6 禁煙したいあなたを、24時間監視するアルゴリズム Somatix

飲食の際の、口へ向かう手の動きを感知するアルゴリズムを開発したSomatixは、その技術を活用して、禁煙のためのソフトウェア、「SmokeBeat」を制作した。スマートフォンと、Apple Watchなど既存の手首装着型のデバイスにアプリを入れると、喫煙時に音で警告したり、1回の喫煙にかかったコストや、健康への悪影響を表示してくれる。

